

# 本年度第1回オープンキャンパス 残念ながら目標人数に達せず



燃え尽きた！？ 本紙発行人 田中良入試広報部長  
撮影 藤掛結衣（保健医療学科2年）

## 一九七名の来場者の皆様に御礼

六月十九日、千葉科学大学ではオープンキャンパスが開催された。まずは一九七名の方が銚子マリーナにある千葉科学大学に足を運んでくれたこ

とに、感謝申し上げます。本当にお越しいただいた皆様ありがとうございました。これもアンケートの結果ではありますが、全体の三分の一の皆

さんが一〇段階評価で最高の評価をいただきましたこと、ここに報告させていただきます。アンケートの評価の件も重ねまして、本当に皆さまありがとうございます。

発行… 千葉科学大学入試広報部  
発行… 田中良  
編集… 宇田川敬介  
写真 伏見泰治

## 学生が高校生と話す

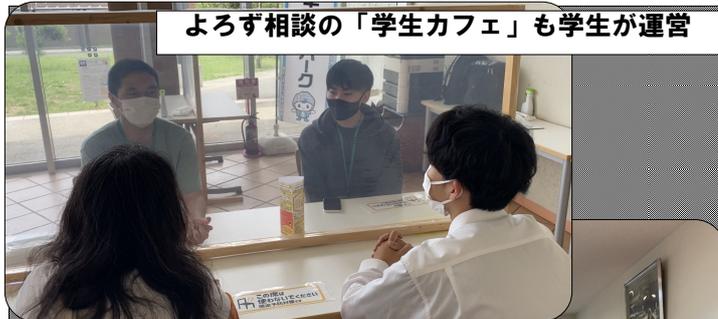
ただし、当初千葉科学大学入試広報部ではもう少し高めの目標を設定していたので、非常に残念ながら目標に達しなかったという、残念なお知らせをしなければならぬということになりました。これも我々千葉科

学大学教職員による、千葉科学大学の魅力や、その内容、またはオープンキャンパスで皆様をお待ちしていることなどを、しっかりとお知らせすることができていなかったことなどが問題であると思います。一同反省しております。そこで、本紙では改めて「オープンキャンパスでどんなことがあったのか」ということと、そして本学の「狙い」をご紹介しますみよう。

通常オープンキャンパスというのは、大学が学内で行われていることや、大学の講義の一部を高校生に見せるということになる。しかし、小学校の時の保護者参観日と同じような感じで、学校側もあまり恥ずかしい部分や隠した

い部分を見せないというような形になってしまっている。要するに「よそ行き」の学校を表面を取り繕って見せているということに過ぎないのではないか。しかし、そのようなオープンキャンパスをして、最も困る結果になるのは「新

入生」である。「よそ行き」の取り繕った大学にそこが来て、大学に入学してみても、その大学は、自分が思い描いていたものとは全く異なるものであったということになってしまっているのではないか。まさに「五月病」というのは、自分の思い描いた未来の姿と自分のおかれた環境のギャップから、自分の心を取り戻せなくなってしまう時に、病気になるって表れるものではないか。それでは、本人が希望を失い、そして一年間を棒に振ってしまうという最も「罪作り」な状況になってしまおう。その場限りで「取り繕う」ことによって、新入学生を迷わせる罪ではないか。そのような考えから、「本当の千葉科学大学の良い所・悪い所を、学生目線で知ってもらおう」ということが、一つの



よろず相談の「学生カフェ」も学生が運営



「受付」も「ご案内」も全て学生が主導した  
少し溜まっているけれども混乱のない受付風景

きなテーマとなつていたのである。つまり、「学生が直接高校生に大学の生の姿を語る」オープンキャンパスを開催したのである。

その為に、講義に關しては教員が行うものの、オープンキャンパス全体の運営は、基本的に入試広報部が企画し、学生が運営するという事で進めていた。

このコンセプトから、受付もご案内も、

そして各学部学科の補助も全て「学生」であり、職員の多くはあまり姿を見せない状態になっていた。

よろず相談コーナーの「学生カフェ(学生食堂内)」においては、学生たちが高校生や保護者の方々をお出迎えし、相談を受け付けるということになった。もちろん、特待生や入試制度など難しいことは専門の職員が専門の場所で話をする

いうことであつたが、大学生活や、学部学科の話、学校の雰囲気や、学校の生活など、どのテーブルも話が盛り上がっている。

学生たちにとっては「先生や職員に監視されることなく、自由に大学の話をできる場所」になつていたし、また保護者相手の時は「就職活動の面接の練習」というような感じにもなつていた。

### 私ここしか受けません

その学生カフェを覗いてみよう。

「そりや大学だからさあ、嫌な先生もいるよ。変なの多いからね」

学生カフェでは赤裸々トークが繰り広げられている。学生カフェのコンセプトは、「NGワードなし。大学の悪口も教職員の悪口も全部OK」ということである。初めのうちはおとなしかった高校生も、学生の生の声はなかなか面白いようで、各テーブルでは驚きの表情と笑いが絶えなかった。

「私決めたんです。この大学以外は行き

視されることなく、自由に大学の話をできる場所」になつていたし、また保護者相手の時は「就職活動の面接の練習」というような感じにもなつていた。

たくさんありません。ここしか受けません」という看護学部を目指す高校生に、保護者の方が「それで本当に入学できるならいいけど、大丈夫なんでしょうか」と、職員に声をかける場面も。さすがに入試前に「絶対に大丈夫です」ということもできない職員は、笑顔で「頑張れば、きっとできる」とお笑い芸人のようなことを言っていた。

一方、受付では少々緊張した面持ちの高校生と保護者が列をなしている。最大の問題は「お面」だ。今回、チラシをくりぬいてかぶつてきた人は右写真のようなバッグをもらえる企画であつた。



こんなバッグをもらえた！

受付ではチラシとハサミと輪ゴムが用意されていて、忘れてしまった人でもバッグをもらうことができるようになった。その為に、現場で「図工の時間」になつてしまう状況が続いてしまい、多少の混乱が見えたが、それでも大きな混乱はなかった。

受付が終わるとジュースのプレゼントがあり、そして希望する学科に、やはり学生が案内するという状況になつている。もちろん、職員も混ざつ

くまでも学生と高校生であるから、職員はあまり口を出さないうで見ている状態である。

なお、たまに黄色にチラシの赤い顔の柄があるオジサンが入ってくるがあつたが、それが本学学長の東祥三先生であつた。しかし、学長が見ている前でも学生は全く関係なく、その受付の前では、時間でDRRの音楽隊の打楽器演奏と、他の時間では、留学生による中国やモンゴルの伝統舞踊が披露された。

この演奏と伝統舞踊に關しては、既に6月号などで、報じられていた通りに、事前に銚子駅前です事前告知をしているときに、その一部が披露されている。しかし、普段中国の伝統舞踊や打楽器の演奏を間近で見ることが

### 音楽と踊りでお出迎え

少ない高校生や来場者にとつては、やはり珍しくも美しい内容ではなかつたか。

その踊りや打楽器を演奏する姿に、本来のオープンキャンパスの目的を一時忘れ、見入っていたり、スマホを取り出して写真を撮る姿があつた。

なんと、本学の教職員や学生の中にも写真を撮る人が出てくる状態であつた。運営をしている側としては、そのように

そのまま自分の仕事をしている姿が印象的である。上の人が来ていてもあまり関係がない、誰が来ても自分の役割をすることができると言える。それが笑顔を自由に普段のことができる。そのような千葉科学大学の姿を感じていただければ良かったのではないかと。

して足を止める人と、そのまま受付に向かう人とで人の流れが変わり、そのことによって受付がスムーズにすむというところを狙っていたのである。

「オーブンキャンパスでは、学生たち自身が自主的にサークルは、学生たち自身が自主的に披露したという経緯である。教職員主導



**DRRの打楽器演奏**  
演奏だけでなくユニフォームがカッコイイ

**留学生で構成した舞踊団**  
おもてなしの心で来場者を魅了



**薬学科は人形を使った実習をしていた**  
薬学科の先生はピンクのシャツで揃えていたのだ

の採取な... どの実習... をしてい... た。高校... 生だけで... なく、近... 隣の皆さ... んも含め... 興味深く... 聞いてい... た。そも... も薬と... は薬草を... 煎じて飲... んでいて、

「学生が中心になつたオーブンキャンパス」といっても、さすがに講義内容までは学生に任せるわけにはいかない。

その一部は事前に紹介したが、今回はその他の内容を見てみよう。

### 各学科は何をやったのか

ではなく、学生が自主的に作り出し、自分たちの学校を紹介したいという熱意のこもったオーブンキャンパス。普段では外部の人と接することは少なく、研究や実習をしている学生も

いるので、あまりうまく対応できなかったり、手際が悪かったりということがあつたかもしれないが、しかし、それが現在の姿の千葉科学大学なのではないか。



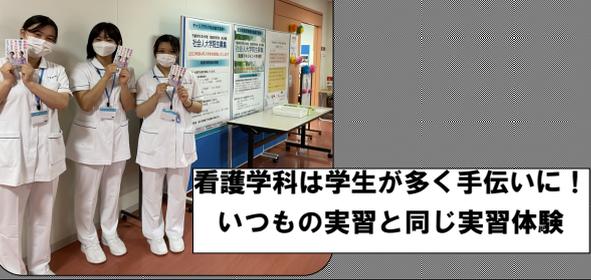
**動物の人形を遣っての実習体験**

その内容を化学的に生成するということが中心である。「学問の原点」を見ることができるところではなかったか。このほかに、人形を使つた実習や模擬薬局など、楽しい実習が多く、そこに専門的な知識を入れて説明をする体制は非常に好評であった。

「おもてなし」体制は、抜群。看護学科の中で学生が高校生の「大学生活相談」を多く受けることができるような状況になっていた。もちろん模

ら、こんなことをやるんだという人は、多くの人がわかってくれたのではないかと思う。そして看護学科は、多くの学生が手伝って、

「おもてなし」体制は、抜群。看護学科の中で学生が高校生の「大学生活相談」を多く受けることができるような状況になっていた。もちろん模



**看護学科は学生が多く手伝いに！**  
いつもの実習と同じ実習体験

# オープンキャンパス参加者アンケート結果

最後に、参加した皆さんのアンケート結果を見てみたい。

参加した動機は、入試情報などよりもやはり「学科の内容や学校の雰囲気」を見に來たいと思ったことが多かったよう

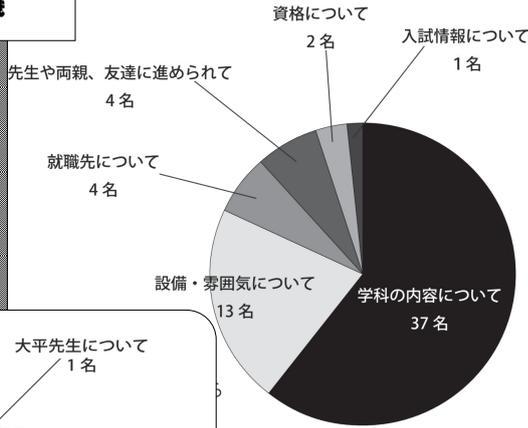
それと、最近の高校生は皆堅実で、「就職先」や「資格の取得」ということも大きく影響しているようである。

それをどれくらい満足頂いたのかとい

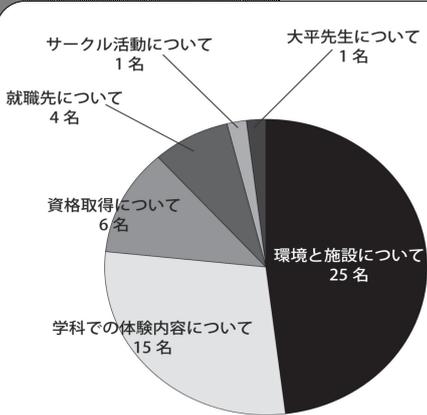
うことを見てみよう。学科の内容については三七名が動機としていながら、一五名が魅力と答えている。つまり、二二名は、「当然」と思っただか、あるいは、少々不満に思ってしまった

## オープンキャンパス参加者アンケート結果

### 参加した動機



### 本学の魅力を感じたこと



たのかもしれない。

一方、施設や雰囲気については一三名が動機にしていながら、そこに魅力を感じた人は二五名、つまり一二名が、参加した動機以上に施設の充実を満了したというのを意味しているのである。実際に、本学の設備はかなり充実していることが自慢だ。

同じように、参加した動機よりも増えているのは「資格取得」についてだ。充実した資格に関しては、または就職先に関しては、保護者も含めて多くの人が安心できる結果ではなかったか。

このほかにもサークル活動なども高く評価されている。学生力フェなどで、学生と話したことからも、学科以外の事も様々に見ることができたのではないか。

アンケートの結果はそのように教えて

# この時期の味 銚子メロン

## この時期の味 銚子メロン

実は、気象観測以来猛暑日になったことがない関東の都市がある。それが勝浦市なのであるが、銚子も非常に過ごしやすく、全国八か所で四〇度を超えて「前代未聞」と言われた日に、銚子は三〇度であった。

それでも夏は暑い。暑いときに欲しくなるのは「夏の味覚」

ではないだろうか。銚子で夏の味覚といえは「銚子メロン」ではないだろうか。

銚子メロンは、銚子の土壌に合った高品質な有機肥料を使用すると共に、「ミツバチ交配」による生産方法で、非常に自然に優しい栽培方法である。特に銚子は海辺であることから、風通しもよく砂

地があるので、

水はけもよい。ウリ科の植物が非常に育ちやすい土壌であり、栽培方法がマッチして非常に甘く、触感である。なんと、その糖度糖度十六度以上の金印。

普通に出回るメロンに比べて、上品な自然の甘さが口の中に広がるのは、銚子の味そのものである。しかし、生産量が少ないために、なかなか市場に出回ることではなく、一部では「幻のメロン」などといわれているのである。

銚子市観光協会がこのメロンの取材を行ったところ、ちょうど生産者の方がいらっしやっていた。

「このメロンおいしいですよ」といつたところ、「何言っただよ、これよりおいしいメロンはまだたくさんあるから、今度持ってきてやるよ！」とのこと。なんと、これよりおいしいメロンなどこの世に存在するのか。とにかく一度食べてみてほしい。



# 新入生歓迎サークル紹介開催

## 千葉科学大学の「元気」が一堂に会してスパーク



### 新型コロナウイルスに負けるな

六月二十九日、マリナキャンパス体育館で「新入生歓迎会サークル紹介」が行われた。

昨年までは、新型コロナウイルス禍の感染防止対策によって、サークル活動はほとんど制限されていたので、当然に勧誘なども行うことはできなかった。活動が出来ないので、実質的に休部しているのと同じようなところが少なくなく、新入部員も入ることはほとんどなかったのです。

今年になって、やっと緊急事態宣言や蔓延防止重点措置が無くなり、最近では屋外ではマスクも外すように政府から指示が出ています。もちろん、手洗いやなるべく「密」になる状態は避けるといふことをしながらも、徐々に普通の生活ができるようになってきたのである。

当然に、サークル活動も感染防止対策をしっかりと行いながらという条件付きではあるものの、今後是可以するようになってくる。

たのである。そのことから、今回サークル紹介が行われることになったのである。本来は、入学宣誓式の後のオリエンテーションに際して行えば最も新入生募集に繋がるのであるが、感染防止の観点からこのようなタイミングでの開催になったのである。

参加団体、及び各サークルの活動場所や活動日などは下記の表のようになって

当日は体育館の舞台で様々な団体がプレゼンを行い、その他はブースが出て新入部員の説明を受けるような状況になっていた。しかし、やはり六月のこの時期になってしまふことと、告知がいまわたつていなかっただなどの事もあり、今一つ新入生の参加が少なかった。

しかし、それでもサークルの熱気は変わらない。また、サー

	団体名	活動日時	活動場所
	学生委員会・青澄祭実行委員会	随時	
	学生消防隊	水 18:30~20:30	消防車庫前、2101講義室
体育局	硬式野球部	火、木 17:00~19:00 土、日 16:00~18:00	グラウンド、クラブハウス棟部室18
	バスケットボール部	月、水、木 19:00~21:00	体育館
	バレーボール部	月、水、木 18:30~20:30	体育館
	サッカー部	金 18:00~20:00	グラウンド、クラブハウス棟部室17
	バドミントン部	火、金 18:30~20:30	体育館
	サーフライフセービング	月 16:30~18:00 土 10:00~12:00	マリナ海水浴場
	文化局	スターラビッツ	金 16:40~
吹奏楽部		月、木 18:00~21:00	6102・6103講義室、クラブハウス棟部室1
軽音楽部		月、木 16:30~18:30	クラブハウス棟部室6
千葉科学大学マリナ合唱団		木 18:30~	2202講義室
美術部		木、金 16:00~18:00	クラブハウス棟部室4
手話サークル		火 6限	看護棟ゼミ室10
愛好会	ローターアクトクラブ	最終水曜日 5限~	
	救命サークル(学生救急隊)	木 17:00~19:00	救命実習室
	サバイバルゲーム愛好会	毎月第二日曜日	学外
	DRR 災害サバイバル愛好会	随時	
	国試無双薬研會	平日18:30~、休日13:00~	共同ゼミ室3、2203教室(金曜日のみ:6限)
	ダンス愛好会	火・金 17:00~19:00 土 14:00~16:00	多目的室
	colous ~protect loving future~愛好会	随時	空き教室利用
	中国舞踊愛好会	水・木 18:30~20:30	多目的室
	柔道愛好会	火・金 17:00~19:00	体育館 格技場

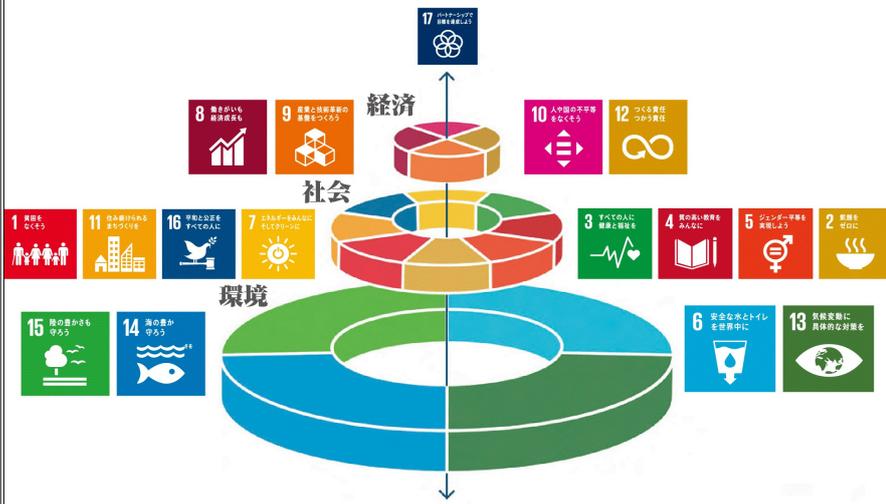
クルに参加している学生は、同好の徒との楽しい会話から、本当の意味でキャンパスライフを満喫し

ている様子がある。まだサークルに入っていない諸君。何か活動をして、一生の

友人や先輩後輩との交流を楽しんでみてはどうだろうか。大学は君たちの笑顔を待っている。

# 危機管理学部でSDGsの取り組み

## 持続可能な社会を作ることが「リスク回避」の中心!?



SDGsのウエディングケーキモデル まずはこれから学ぼう

### 今若者の関心を集める

さすがに今になってSDGsと言つて何だかわからない人も少ないのかもしれない。一応説明すると「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」ということで、貧困、不平等・格差、気候

変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人たちにとつてより良い世界をつくるために設定された、世界共通のこの目標です。二〇一五年に、「国連持続可能な開発に関するサミット」が、ニューヨークで開催されました。ここで、「我々の世界を変革する…持続可能な開発のための二〇三〇アジェンダ」が、世界各国の政府によって採択され、その中に17の目標が示され、二〇三〇年までの一五年間で達成することを目指して世界で動いているということになります。

元々は二〇〇〇年に世界はミレニアム開発目標(MDGs)がありました。これは発展途上国を対象にしていたものなのですが、二〇三〇アジェンダではそれを世界全体に広げたものなのです。もちろん専門家によれば、このよう

な説明では足りないかもしれません。しかし、大学で初めてこのことを学ぶ人もいますから、最も簡単な内容からお話をし、そして、徐々に

いのかもしれません。しかし、大学で初めてこのことを学ぶ人もいますから、最も簡単な内容からお話をし、そして、徐々に

### 本学での取り組み

千葉科学大学では、危機管理学部が中心になって、一七の課題全てについて学ぶことになった。二〇三〇アジェンダにある一七の課題について、そのすべてが危機管理学部内の四つの学科で網羅できるということから、危機管理学部が主幹した。

危機管理学部の中

では、本来の目的や専門的な内容、それに「商業的に利用しているだけの人々など」をどのようにつかつかうか」などということもやるべきではないかということも議論された。もちろん、危機管理学部の先生たちは、SDGsで盛り上がっていることの弊害などもあることに注意しながら進めなければならぬし、また、現在に至るまでの経緯なども学ぶべきであるということとは理解できる。

しかし「初めから専門的なことを学ぶ

は専門的な説明は

こんなにたくさんの学生が興味を持って参加



「初めから専門的なことを学ぶ」

「初めから専門的なことを学ぶ」

「初めから専門的なことを学ぶ」

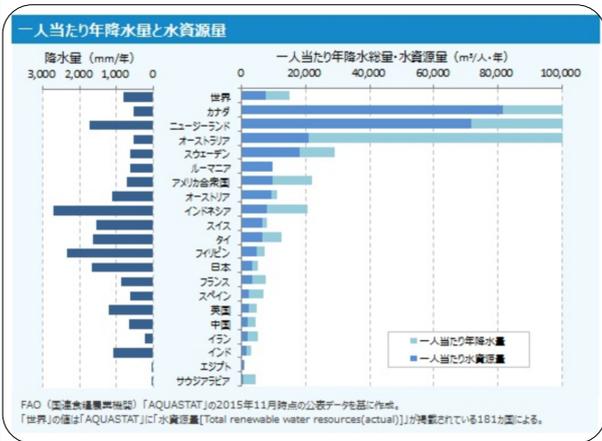
# SDGsの入り口・水について学ぶ

## 千葉科学大学の周辺の環境と化石海水型温泉

千葉科学大学新聞編集部は、危機管理学部のSDGsの取り組みの中から、目標六「安全な水とトイレを世界中に」、目標一四「海の豊かさを守ろう」を担当しておられる動物危機管理学科の手束聡子先生の講義に潜入してみた。

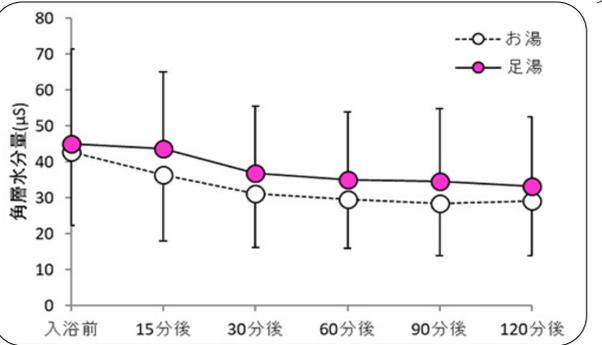
目標六は、「安全な水とトイレを世界中に」ということで、すべての人が安全で安価な水を使えるようにすること、適切な方法による下水処理やごみ処理などの衛生設備が整った環境で暮らせることを目指すための目標だ。排水処理を通して水質を管理することや、今後深刻化するといわれている水不足に対し、水の再利用や利用効率の改善、コミュニティ参加による水資源管理や水に関する生態系の保護も目指している。

また目標一四は「海の豊かさを守る



「惑星」の惑星といわれる地球が、このように水不足の状況にある。科学的な情報に基づいた保全を実施することもこの目標に含まれ、また、人々の暮らしに欠かさない魚だが、途上国や島嶼国の人々が漁業規制などによって困窮しないよう、海からの資源を持続可能な方法で利用し、そこから収入を得るために支援することも明記している。

その恵まれた国日本でも、特に恵まれているのが銚子である。古い地層が出てきているという地層の水が温泉として出てきていることになり、このように化石海水型温泉とい



「世界は水不足」は、SDGsの一般

まず手束先生からは、科学的な情報に基づいた保全を

その恵まれた国日本でも、特に恵まれているのが銚子である。

二〇五〇年には世界の四〇%が水不足となり、特に農業用水が不足するのでは

千葉科学大学は銚子市および犬吠埼温泉協議会と連携し、二〇一五年から二〇一六年度にかけて科学的な証拠を収集しています。その結果、現代版湯治効果の価値創造に尽力したとして、犬吠埼温泉は「温泉総選挙二〇一九」にて審査員特別賞を受賞しています。

# 卒業生訪問 銚子市消防署土井香寿実さん



救急車は私の職場という土井香寿実さん

自分の夢をかなえた卒業生の話を聞く。今回は、銚子市消防本部で救急救命士として活躍している土井香寿実さんにお話を聞いてみた。

大学在学中には陸上部でトライアスロンで鍛えながら救急救命士を目指し、また学生消防隊などでも活躍していた土井さんは、銚子市消防本部で活躍している。実は、銚子市は数年前まで消防庁舎が古く、更衣室などの

設備の都合で、土井さんが銚子市の女性消防署員第一号であり、現在、唯一の女性署員である。「女性だからと言って遠慮されるのは嫌なんです。でも、消防本部の中では、学生時代よりも女性扱いされています。学生時代は目の前で着替えるような人も少なくなかったの」と笑う。もちろん、

本学がセクハラというわけではない。本学では男性も女性も関係なく緊張感の中で訓練していたのだ。救命救急士になっても土井さんも少し余裕が出てきたというところかもしれない。「女性がいることで、女性患者のケアや心遣いなどで非常に助けら

れています。もちろん、他の人に後れを取ることありませぬから、頼もしい存在です」とは課長補佐の加藤正洋さん。既に救急救命士としてしっかりと溶け込んでいる。

「女性であっても男性であっても関係はない。やりたいことをやれる人、仕事に感謝をできる人、チームワークを大事にする人が救命救急士に必要ではないでしょうか」という土井さん。実際に、新人であっても、救急救命士として出動できるのは三人だけ。現場に出たら半人前などという言い訳は通用しない。そのときに、

事は務まりません。自分の置かれた状況を判断し、自分で考えて必要なことを行ななければ仕事にならないのです。土井さんは、初めから状況を判断し、自分で考える行動ができています。素晴らしい救命救急士ですよ」と青柳孝幸副署長も太鼓判を押す。

「千葉科学大学とは、既に十年連携し、特に学生消防隊の訓練なども見させていただいております。人のために役立ちたいという心を持った人は少なくないですが、その中で、消防はストリートに人を助ける仕事です。是非皆さんも土井さんの後に続いて、消防士・救命救急士として活躍する人材になってください。」

千葉科学大の人材が多くの人に求められている。指示されることを待つてはこれの仕

## 見ればゆるゆるな可能性がみえてくる

来たる七月二三日・二四日は、千葉科学大学の令和四年度二回目のオープンキャンパスである。前回のコンセプトは「いいものを見せよう」とい



うものだったが、今回は、見ていただければ、様々な色の自分の未来や可能性がみえてくるというところがコンセプトだ。高校生のうちから、将来を決めてしまう人が少なくない。しかし、本紙でも見て

「今回のオープンキャンパスは、そのようなことが見えてくれれば良いのではないかと。その為には、教員とばかり話すのではなく、実際に学んでいる学生や卒業して活躍している社会人、そして、いろいろな経験を積んで学生の相談相手になる職員と話をしてみたい。」

【編集後記】 第四号は、オープンキャンパスとサークルについて特集をした。この二つの事は、昨年まで新型コロナウィルス禍で制限されていたことです。このような特集が組めること自体「コロナが収まってきた」ということではないでしょうか。 さあ、キャンパスライフ本番です。将来の夢に向かって令和四年の夏を楽しみながら進みましょう。大学は全ての人を応援しています。